

## 愛知県環境影響評価審査会会議録

- 1 日時 平成28年9月15日（木）午前10時から午前10時45分まで
- 2 場所 愛知県議会議事堂 5階 大会議室
- 3 議事
  - (1) トヨタ自動車田原工場風力発電所設置事業に係る計画段階環境配慮書について
  - (2) その他
- 4 出席者  
委員18名、説明のために出席した職員10名、事業者8名
- 5 傍聴人  
傍聴人なし
- 6 会議内容
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ア トヨタ自動車田原工場風力発電所設置事業に係る計画段階環境配慮書について
      - ・ 会議録の署名について、大東会長が酒巻委員と富田委員を指名した。
      - ・ 資料1及び参考資料2について、事務局から説明があった。
      - ・ 参考資料2の一部に希少な動植物の位置情報が含まれていることから、大東会長が会議の非公開について委員に諮り、当該部分の審議に限り、会議を非公開とすることとした。
      - ・ 資料2について、夏原部会長から報告があった。

### <質疑応答>

- 【山田委員】資料2の部会報告2（3）に関して、単機出力5,000kW級の国内での風力発電設備の採用事例は少ないとしているが、同規模のものが国内で設置された事例はあるのか。
- 【事務局】陸上で1件、洋上で1件、採用されているとのことである。
- 【山田委員】いつ、どこに設置されたのか。
- 【事務局】陸上の方は茨城県内で平成27年に1基、また、洋上の方は福島県沖において今年1基設置された。
- 【山田委員】最近設置されているので、バードストライクの情報もなさそうだが、設置事業者を確認した方がよいと思われる。
- 【事務局】海外でも採用事例はあるとのことなので、部会報告1（1）アにもある

とおり、今後国内外の情報を得ることが重要と考えている。

【大東会長】資料2の部会報告の内容をもって審査会から知事への答申とすることとしてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

【大東会長】異議なしとされたので、部会報告の内容でもって審査会から知事への答申とする。

- ・ 資料2の「トヨタ自動車田原工場風力発電所設置事業に係る計画段階環境配慮書に関する部会報告」を審査会答申とすることで合意し、別紙のとおり答申した。

イ その他

- ・ 特になし。

(3) 閉会

(別紙)

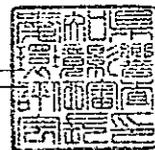
平成28年9月15日

愛知県知事

大村秀章殿

愛知県環境影響評価審査会

会長 大東憲



トヨタ自動車田原工場風力発電所設置事業に係る計画段階環境配慮書に  
ついて (答申)

平成28年8月3日付け28環活第176-1号の諮問については、別添のとおり答申  
します。

## トヨタ自動車田原工場風力発電所設置事業に係る計画段階環境配慮書に対する答申

### はじめに

トヨタ自動車田原工場風力発電所設置事業に係る計画段階環境配慮書（以下「配慮書」という。）について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者においては、以下の事項について十分に検討した上で、風力発電設備の規模、基数、配置、構造を絞り込み、環境影響評価方法書（以下「方法書」という。）以降の図書を作成すること。また、環境の保全の配慮に係る検討の経緯及びその内容について、方法書以降の図書に記載すること。

### 1 全般事項

#### (1) 総論

ア 国内外の環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、環境影響の回避、低減に努めること。

イ 事業実施想定区域周辺の既設の風力発電所（以下「既設風力発電所」という。）について、既設風力発電所の事業者等から騒音の状況及び鳥類の風力発電設備への衝突状況等に関する情報収集に努めるとともに、当該情報を活用して、環境影響の回避、低減に努めること。

ウ 既設風力発電所との累積的な環境影響が懸念されることから、1（1）イで収集した情報も踏まえ、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

#### (2) 騒音及び超低周波音

「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」（平成 27 年 10 月、環境省）、「風力発電施設から発生する騒音等の評価手法に関する検討会」（環境省）の検討結果等に基づき、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

#### (3) 鳥類

ア 事業実施想定区域及びその周辺では、チュウヒ等の重要な種が確認され、また事業実施想定区域の南側には、水鳥の重要な渡来地である汐川干潟が存在しており、鳥類の風力発電設備への衝突事故や移動経路の阻害等が懸念される。このため、専門家等の指導・助言を得ながら、適切な調査、予測及び評価の手法を検討するとともに、影響の回避、低減に努めること。

イ 調査においては、飛翔軌跡、飛翔高度、構造物の回避行動、餌場やねぐら等への移動経路、渡りの経路等の記録が重要となることに十分に留意して、適切な調査の手法を検討すること。また、夜間調査の実施についても検討すること。

#### (4) 景観

十分な現地踏査を実施した上で、適切な予測及び評価地点を検討すること。

## 2 個別事項

### (1) A案（単機出力2,000～2,100 kW、基数12基）

#### ア 騒音及び超低周波音

環境影響評価の結果等を踏まえ、住宅等から適切な離隔を図ること等により、影響の回避、低減に努めること。

#### イ 鳥類

配慮書344頁の図4.3.3-9(1)等で示している風車配置3及び4については、事業実施想定区域内の南側の草地等を利用する鳥類への影響が懸念されることから、環境影響評価の結果等を踏まえ、風力発電設備の機種を選定とあわせて設置基数を減らすことも含めた配置を検討することなどにより、影響の回避、低減に努めること。

### (2) B案（単機出力3,400 kW、基数7基）

#### ア 騒音及び超低周波音

環境影響評価の結果等を踏まえ、住宅等から適切な離隔を図ること等により、影響の回避、低減に努めること。

#### イ 鳥類

配慮書344頁の図4.3.3-9(1)等で示している風車配置3及び5については、事業実施想定区域内の南側の草地等を利用する鳥類への影響が懸念されることから、環境影響評価の結果等を踏まえ、風力発電設備の機種を選定とあわせて設置基数を減らすことも含めた配置を検討することなどにより、影響の回避、低減に努めること。

### (3) C案（単機出力5,000～5,200kW、基数5基）

国内での風力発電設備の採用事例が少ないことから、知見を十分に収集し、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

## 3 その他

方法書以降の図書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。

また、インターネットの利用により公表する図書について、印刷できるようにすることや、縦覧期間後も引き続き閲覧できるようにすることなど、住民等の理解促進及び利便性の向上に努めること。

## 検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
平成 28 年 8 月 3 日	審 査 会	知事からの諮問 配慮書の内容の検討 部会の設置及び付託
平成 28 年 8 月 24 日	部 会	配慮書の内容の検討
平成 28 年 9 月 8 日	部 会	配慮書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討
平成 28 年 9 月 15 日	審 査 会	配慮書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

## 愛知県環境影響評価審査会委員

	生田 京子	名城大学工学部准教授
	井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	大石 弥幸	大同大学情報学部教授
	片山 直美	名古屋女子大学家政学部教授
	酒巻 史郎	名城大学工学部教授
◎	大東 憲二	大同大学情報学部教授
	武田 美恵	愛知工業大学工学部准教授
	田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
	谷村 篤	元情報・システム研究機構国立極地研究所教授
	谷脇 弘茂	藤田保健衛生大学医学部講師
	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師
	富田 寿代	鈴鹿大学国際人間科学部教授
	中川 弥智子	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
	中村 英樹	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	那須 民江	中部大学生命健康科学部教授
	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	成瀬 一郎	名古屋大学未来材料・システム研究所教授
	西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
	二宮 善彦	中部大学工学部教授
	橋本 啓史	名城大学農学部准教授
	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部准教授
	櫃田 珠実	名古屋芸術大学デザイン学部教授
	増田 理子	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
○	松尾 直規	中部大学工学部教授
	宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
	山澤 弘実	名古屋大学大学院工学研究科教授
	山田 佳廣	三重大学大学院生物資源学研究科教授
	吉永 美香	名城大学工学部准教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)